連帯をもとめて！

自らを一般学生と称し自己の責任を回避している諸君！我々は諸君に訴えたい――現在の情況は我々に何を要求しているのか？過去二年日の人間の歴史の重みは我々に何を迫っているのか！

我々4日生の自覚は、現代世界が、日本が、再び暗黒の世界に突入せんとしていることに重大な危惧の念を抱き、その原因を科学的に分析するとともにそれを阻止し、我々が理想とするところの戦争と飢餓のない世界を創るために何をすればいいのかというそれこそ、途方もない偉大な事業を成し遂げるために、その一歩を踏み出すべく去る4月23日約90名が結集し連絡協議会の準備会を結成した。そして我々は一昨日、28日の安保・沖縄闘争を反戦青年委員会の若き労働者諸君と、全学連の革命的学友諸君と連帯し、新橋で、銀座で、赤いはお茶の水で闘った。そして今日、この連合新綱会での同文に結集している。

学友諸君！我々の恐れはこうである。

現代、戦後20数年を経た今、日本は再び第四帝国主義段階に突入しつつあり、70年安保をメルクマールとしてアジアに対する侵略は手新的な段階から反動、軍事的段階に移りつつある。そして、中、後進諸君をめぐる先進第四帝国主義諸国の市場分割はますます激化し、第四帝国主義の反革命の成功はベトナムから朝鮮半島へ、更に東ヨーロッパへと拡大しつつある。日韓協定、沖縄返還協定は、第四帝国主義の侵略の新たな段階である。日本帝国主義の侵略の目的は、第四帝国主義の再建、強化であり、自己の資本の拡大、市場の獲得、原料の獲得、植民地の獲得である。これは、第四帝国主義の再建、強化、拡大のための戦争であり、そして、労働者、農民、市民に対する弾圧であり、林闘争の圧殺、警察力の強大化であり、自衛隊の拡充出動体制であり、そして、労働者の首切り、レッドパージであり、大学に対する中教審答申、文部次官通達、大学管理法案であり、軍事費増強であり、憲法の改悪であり、そしてこれらをとりまく情況のマスコミを通じた世論操作である。我々は第二、第三の「二・二六」も明らかなように、ファシズムの成立を考えているものだ。我々は"戦争と革命"の方向に進行しているアジア、我々の敵対を倒し、粉砕しなければならない。

我々4月戦争反対青年委員会ではあるけれども一昨日28日約千名の結集をもって安保・沖縄闘争を闘い抜き、その政治的"質"をもって本日の新綱領政治集会において、これら日本帝国主義の野望をしりつつ自己保身からまだ我々と共に戦うことに決起しようとせず、前大会以前にイニシアチブを握り、ゲンチャが起こした反革命的役割を演じもやろうとしている教育者を厳しく弾劾すること、そして、我々こそ敵対する国家権力に対する断固たる闘争を共闘することを誓うものである。それは、彼ら教育者をもって自己の侵略政策を支援し、前から反動と共して権力に屈服し自己と全世界の人民を裏切ってきた事に対して、少しでも良心のかけらがあるならば今、現在行動をとるべき責務があると我々は考える。最早教育者は自らの学問を体制の犬として奴隷とすることを止め、全世界の人民に自らの学問、それが単なる知識の集合でないならば、その役割をするようにすべきである。東大闘争をみいて東大闘争を支援した教授会の役割は何であったのか、根底的に総括すべきである。井上亮大・九大前教授、折原浩大助教授、安藤英外大教授、岩崎允胤教授等々と共にがんばい。自己を変革しようとせずしてなんで体制を変革できるのか！我々は教授達に我々と共に権力の弾圧に対して断固として闘うことを呼びかける！

学館、寮、健保、農学部闘争、中教審答申、文部次官通達、大学管理法案粉砕、そして、安保粉砕の闘争に教授諸氏は我々と共に闘おうではないか！

全ての4日の学友は4連帯に結集せよ！

権力の弾圧をはねのけ安保粉砕、日韓打倒！

沖縄米軍政打倒、核基地撤去！

全国の学友と団結を！

全世界の人民と連帯を！

（連帯を求める教授会準備会（旧警館3階）

つづく